

高等学校 令和6年度（1学年用） 教科 国語 科目 言語文化

教 科： 国語 科 目： 言語文化 単位数： 2 単位  
対象学年組：第 1 学年 1 組～ 組  
教科担当者：（1組：森田 ）（ 組： ）（ 組： ）（ 組： ）（ 組： ）（ 組： ）  
使用教科書：（ 新編 言語文化 【大修館書店】 ）  
教科 国語 の目標：

- 【知 識 及 び 技 能】生涯にわたる社会生活に必要な国語について、その特質を理解し適切に使うことができるようにする。
- 【思考力、判断力、表現力等】生涯にわたる社会生活における他者との関わりの中で伝え合う力を高め、思考力や想像力を伸ばす。
- 【学びに向かう力、人間性等】言葉のもつ価値への認識を深めるとともに、言語感覚を磨き、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、生涯にわたる国語を尊重してその能力の向上を図る態度を養う。

| 【知識及び技能】  | 【思考力、判断力、表現力等】   | 【学びに向かう力、人間性等】   |
|---|--|--|
| 生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めることができるようにする。 | 論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。 | 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。 |

|             | 単元の具体的な指導目標  | 指導項目・内容   | 領域     |   |   | 評価規準   | 知 | 思 | 態 | 配<br>当<br>時<br>数 |    |
|-------------|--|---|--------|---|---|--|---|---|---|------------------|----|
|             |  |   | 語<br>文 | 書 | 読 |  |   |   |   |                  |    |
| 1<br>学<br>期 | 「季節の言葉と出会う」<br>黛まどか<br>【知識及び技能】<br>言葉には、文化の継承、発展、創造を支える働きがあることを理解する。<br>【思考力、判断力、表現力等】<br>作品や文章に表れている筆者のものの見方、感じ方をとらえ、内容を解釈する。<br>【学びに向かう力、人間性等】<br>日本の伝統的な自然観や美意識について筆者の主張をとらえることに興味をもち、季語や日本独特の自然の味わい方に対して関心をもつ。             | ・指導事項<br>常用漢字の読み書き 語句の意味<br>知っている季語を発表<br>「うつろい」に対する日本人の美意識について読み取る<br>韓国と日本の花の愛で方の対比<br>桜にまつわる言葉を知る<br>季語を具体例で知る<br>日本の美意識や感性について考えを書く<br><br>・教材<br>教科書、プリント<br><br>・一人1 台端末の活用 |        |   | ○ | 【知識・技能】<br>言葉には、文化の継承、発展、創造を支える働きがあることを理解している。<br>【思考・判断・表現】<br>「読むこと」において、作品や文章に表れている筆者のものの見方、感じ方をとらえ、内容を解釈している。<br>【主体的に学習に取り組む態度】<br>日本の伝統的な自然観や美意識について筆者の主張をとらえることに興味をもち、季語や日本独特の自然の味わい方に対して関心をもとうとしている。                         |   | ○ | ○ | ○                | 8  |
|             | 定期考査   |   |        |   |   |  | ○ | ○ |   | 1                |    |
|             | 「詩歌の調べ」<br>【知識及び技能】<br>詩歌に親しみ、理解するために必要な文語のきまりや訓読のきまり、詩歌の形式、古典特有の表現などについて理解する。<br>【思考力、判断力、表現力等】<br>自分の体験や思いが効果的に伝わるよう、文章の種類、構成、展開や、文体、描写、語句などの表現のしかたを工夫する。<br>【学びに向かう力、人間性等】<br>四季の詩歌を読むことに興味をもち、詩の形式や表現の特徴を意識しながら、情景や心情を味わう。 | ・指導事項<br>漢詩、和歌、俳句、詩の形式や特徴を確認<br>作品の意味や内容を調べる<br>春夏秋冬の詩歌の言語文化としての特徴を考える<br>鑑賞文を書く<br><br>・教材<br>教科書、プリント<br><br>・一人1 台端末の活用  |        |   | ○ | 【知識・技能】<br>詩歌に親しみ、理解するために必要な文語のきまりや訓読のきまり、詩歌の形式、古典特有の表現などについて理解している。<br>【思考・判断・表現】<br>「書くこと」において、自分の体験や思いが効果的に伝わるよう、文章の種類、構成、展開や、文体、描写、語句などの表現のしかたを工夫している。<br>【主体的に学習に取り組む態度】<br>四季の詩歌を読むことに興味をもち、詩の形式や表現の特徴を意識しながら、情景や心情を味わおうとしている。 |   | ○ | ○ | ○                | 5  |
|             | 「とんかつ」<br>【知識及び技能】<br>文章の意味は、文脈の中で形成されることを理解する。<br>【思考力、判断力、表現力等】<br>文章の構成や展開、表現の仕方、表現の特色について評価することができる。<br>【学びに向かう力、人間性等】<br>登場人物の人物像や心情を読み取ることに関心をもち、作品の構造を理解する。   | ・指導事項<br>常用漢字の読み書き 語句の意味<br>場面の内容をまとめる<br>方言の効果について話し合う<br>とんかつを食べる母の気持ちを考える<br>主題をまとめる<br><br>・教材<br>教科書、プリント<br><br>・一人1 台端末の活用   |        |   | ○ | 【知識・技能】<br>文章の意味は、文脈の中で形成されることを理解している。<br>【思考・判断・表現】<br>「読むこと」において、文章の構成や展開、表現の仕方、表現の特色について評価している。<br>【主体的に学習に取り組む態度】<br>登場人物の人物像や心情を読み取ることに関心をもち、作品の構造を理解しようとしている。  |   | ○ | ○ | ○                | 8  |
|             | 定期考査   |   |        |   |   |  | ○ | ○ |   | 1                |    |
| 2<br>学<br>期 | 「古文に親しむ」<br>【知識及び技能】<br>文字や言葉の変化、古典と現代の言葉のつながりについて理解する。<br>【思考力、判断力、表現力等】<br>作品や文章に表れているものの見方等を捉える。<br>【学びに向かう力、人間性等】<br>古文を読むことに興味をもち、積極的に音読したり味わったりする。   | ・指導事項<br>かな文字の確認<br>いろは歌の音読<br>歴史的仮名遣いの練習<br>古文冒頭選の音読<br>「児のそら寝」の読解<br><br>・教材<br>教科書、プリント<br><br>・一人1 台端末の活用   |        |   | ○ | 【知識・技能】<br>文字や言葉の変化、古典と現代の言葉のつながりについて理解している。<br>【思考・判断・表現】<br>作品や文章に表れているものの見方等を捉えている。<br>【主体的に学習に取り組む態度】<br>古文を読むことに興味をもち、積極的に音読したり味わったりしようとしている。   |   | ○ | ○ | ○                | 15 |
|             | 定期考査   |   |        |   |   |  | ○ | ○ |   | 1                |    |
|             | 「随筆を楽しむ」<br>【知識及び技能】<br>文語のきまりや古典特有の表現などについて理解する。<br>【思考力、判断力、表現力等】<br>作者のものの見方、感じ方、考え方をとらえ、内容を解釈する。   | ・指導事項<br>『枕草子』の内容・筆者について整理<br>「春はあけぼの」の音読、読解<br>「うつくしきもの」の音読、読解<br>「にくきもの」の音読、読解  |        |   | ○ | 【知識・技能】<br>文語のきまりや古典特有の表現などについて理解している。<br>【思考・判断・表現】<br>作者のものの見方、感じ方、考え方をとらえ、内容を解釈している。<br>【主体的に学習に取り組む態度】   |   | ○ | ○ | ○                | 15 |

[illegible]